



本紙に掲載されている本会オンライン事業の画像は、本会理事長が撮影を許可した広報委員会によるものです。本会オンライン事業に関するコンテンツの複製、その利用等は、目的の如何および個人利用を問わず、本会理事長が許可した場合を除き一切禁止しております。



News Letter

No.43

一般社団法人日本老年歯科医学会 会報

2021年3月31日発行

【本号のトピックス】

32回学術大会参加登録絶賛受付中!! / 委員会だより(在宅歯科医療, 学術) 新規 専門医認定者の声 / 第2回台湾日本高齢者口腔医学サミット参加報告 / 開催報告(オンラインLive 研修会, オンライン歯科衛生士セミナー) / 支部だより(三重支部) / 学会だより(Minds掲載のお知らせ, 支部セミナー案内)

第32回学術大会「人生100年時代に老年歯科医学ができること」 参加登録絶賛受付中!!

大会長 河相安彦
(日本大学松戸歯学部有床義歯補綴学講座)

第32回学術大会(2021年6月11~13日)まであと2カ月ほどとなりました。昨年11月の学術大会から3カ月ほどにもかかわらず、209演題をいただきましたことに安堵しているところです。ほかにシンポジウムが合わせて11セッション、特別講演と教育講演がそれぞれ1セッションのほか、スポンサーセミナーを複数予定しています。前回の大会で演題を出していただき間もない中、引き続きエントリーをしてくださった会員の皆様、ご協力いただきました賛助会員や企業の皆様、本当にありがとうございます。また、今回初めて「Meet the President: 理事長とランチ&しゃべり場-ON LINE」と題した交流会を実施いたします。こちらはどなたでも参加自由で、理事長と双方向にざくばらんに交流する場です。多くの皆様の参加をお待ちしております。

詳細につきましては学会誌35巻4号に大会案内が掲載されておりますので、是非そちらをお目通しください。今回はご存知のように老年学会との合同です。こちら老年歯科医学会の参加で、オンラインで好きな時に会場の移動なく興味深いセッションに参加することができます。それらも含め、改めて日程表や企画一覧を見ると、素晴らしいプログラムばかりで、どれを見ようかと悩まれるかと思いますが、ご安心ください。学会終了後、2週間(6月27日まで)オンデマンドで何度でも繰り返したり、見逃しを確認したりすることができます。まだまだ、新型コロナウイルスの終息は先かと思いますが、一足先に、眩しい光が注がれる大会になること間違いありません。

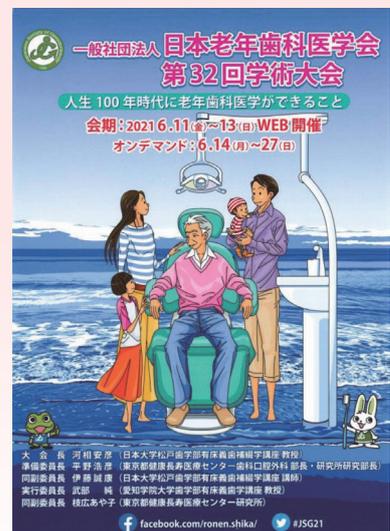
参加登録の受付は2021年6月27日(日)までとなっていますが、4月30日(金)までに登録された方には

5月下旬頃に参加証、領収書、プログラム集を送付いたします。早めの登録が、おすすめです!皆様どうぞ奮ってご参加ください。

会期: 2021年6月11日(金)~13日(日)
/ Live 配信プログラム

※学会誌35巻4号掲載の日程表をご確認ください。
※Live 配信プログラム: 企画シンポジウム、各プログラム質疑応答、課題口演、認定医審査ポスター、優秀ポスター審査、Meet the President

2021年6月11日(金)~27日(日)
/ オンデマンド配信



大会 HP への QR コード

委員会だより

在宅歯科医療委員会

委員長 佐藤裕二

委員長、副委員長、委員 9 名、オブザーバ 3 名、幹事、担当役員（理事長）の計 16 名の多彩な顔ぶれです。「COVID-19 対応型歯科訪問診療の指針作成」「在宅歯科医療教育基準・標準テキストの作成」「在宅歯科医療専門医制度の立ち上げの検討」「関連団体との連携の強化」「在宅歯科診療におけるオンライン診療の検討」「学術大会シンポジウム提案」など、多くの課題を、6 つのワーキンググループに分かれて検討しています。

2020 年度はすでに 4 回の委員会をリモートで開催しましたが、通常開催のときよりも逆に出席率はよく、活発な議論ができています。年度終わりには、以下の成果が公開できるよう努力しています。

- ・高齢者施設職員向け口腔ケアの手引き
 - ・高齢者施設職員向けの口腔ケアリーフレット
 - ・歯科訪問診療における感染予防策の指針
 - ・在宅歯科医療教育基準
 - ・在宅歯科診療に役立つ COVID-19 関連情報リンク集
- さらに、教科書の作成や研修会の企画も視野に入れて走り続けます。どうかご支援・ご指導のほど、よろしくお願いいたします。

学術委員会

委員長 池邊一典

・口腔機能低下症・検査情報管理アプリ (JSG EXAM7) のご案内

口腔機能低下症を本学会が提唱し、保険導入されてから 3 年が経ちました。口腔機能低下症は 7 項目の検査と管理が必要ですが、診療現場での管理は検査項目が多く、容易ではありませんでした。この問題を解決するために、本学会では口腔機能低下症管理アプリ「JSG EXAM7」を会員の皆様に利用いただけるようにいたしました。

【特徴】

- ・タブレットやスマートフォンで使用可能なインターフェース
- ・チェアサイドでのリアルタイム検査結果入力と口腔機能低下症の判定
- ・「管理計画書」と「管理記録簿」の作成と印刷が可能

このアプリは、口腔機能低下症の検査結果や管理に関する全国調査を目的に開発されました。この調査にご協力いただける会員の方は、無料で利用可能です。是非、ご参加をお願いします。なお、患者氏名などの収集は行いません。本研究は、日本老年歯科医学会倫理審査委員会の承認を受けて実施されております（承認番号 老年歯科倫理 2020-1 号）。



・JSG クラウドのご案内

本会 30 周年事業の 1 つである、多施設共同研究支援クラウド (JSG cloud) が運用開始されました。JSG cloud は、老年歯科医学における基礎・臨床・疫学研究に必要な調査活動を支援するためのデータ共有・管理システムです。会員が自身の調査活動のデータ管理に利用することが可能であり、複数の会員による共同研究に特に有用です。利用料は無料です。是非、ご活用ください。

日本老年歯科医学会

多施設共同研究支援クラウド

プロジェクト一覧

ユーザ設定



新規 専門医認定者の声

大岡貴史先生

(明海大学歯学部機能保存回復学講座)

これまで摂食嚥下リハビリテーションを中心として高齢者歯科医学、特に昭和大学歯学部時代は急性期病院の病棟、現在は訪問歯科診療や口腔がん術後のリハビリテーションに携わってきました。元々は小児・障害児の摂食機能療法からスタートし、現在でも0歳児の口蓋裂や哺乳不全の例から90歳代の人生最終章の診療に関わらせていただいています。



反対に、有病者の歯科診療などに触れる機会はほとんどなく、幅広い分野をカバーする日本老年歯科医学会の専門医としては研鑽を積まなければいけないと自覚しております。

若手の指導にも一層力を入れる必要があり、今後は指導医取得、さらには明海大学病院を研修機関にすべく努力していきますので、よろしくお願いいたします。

山添淳一先生

(九州大学大学院歯学研究院顎顔面病態学講座
口腔医療連携学分野)

私の高齢者歯科医療の臨床経歴は、一般開業医および市中病院歯科勤務を経て、現在は特定機能病院の歯科に勤務しております。症例報告書ではさまざまな疾患を抱えた患者で、多職種協働での口腔健康管理・栄養管理を中心とした、全身管理下での一般歯科治療を含む有病高齢者歯科診療の内容としました。筆記試験では、歯科に専門的な内容から多職種横断的な内容(全身管理、摂食嚥下リハなど)まで多岐にわたる知識を再確認することができ、有意義な機会でした。



今後は、ますます複雑・多様化する高齢者医療において歯科医療者として存在感を発揮し、社会貢献できるよう精進いたします。また、高齢者歯科医療発展のため、後輩の育成にも尽力いたしたいと思っております。

村上正治先生

(原土井病院)

私は急性期病院、在宅診療を経て、現在は慢性期病院に勤務しており、高齢者を対象に歯科治療、嚥下機能評価などをさせてもらっています。大学病院とは違い、地方の病院勤務だと能動的に知識のアップデートを行う必要がある点や、より広い視野をもって高齢者歯科医療に携わりたと思ったことから専門医試験を受けることとしました。今回、症例報告書を作成するにあたり、指導医



からいろいろなアドバイスをいただいたことで、今後の課題も含め新たな視点で症例と向き合う良い機会になりました。今後は専門医として、ますます増える高齢者にトータルに対応できる歯科医師となり、微力ながら高齢者歯科医療の一端を担っていければと思っています。

田中康貴先生

(日本歯科大学新潟病院訪問歯科口腔ケア科)

私は臨床研修修了後、高齢化率の高い地元で通用する歯科医師になりたいと考え、摂食嚥下リハビリテーションについて学びました。現在は日本歯科大学新潟病院の訪問歯科口腔ケア科で臨床経験を積みながら、地元の診療所での訪問歯科診療も行っています。



試験の問題は摂食嚥下や全身管理、粘膜疾患、認知症など多岐にわたり、勉強し直す良い機会になりました。今後は、訪問歯科診療や摂食嚥下リハビリテーションなどに力を入れて取り組み、地域医療に貢献したいと思っております。

濱田浩美先生

(北海道(幌西歯科))

今回の本学会の専門医試験で、私は恥ずかしながら久しぶりに本気で勉強しました。出題される範囲がとても幅広かったので、普段の診療で自分が専門としていた分野だけの知識では到底太刀打ちできず、国家試験の受験勉強を思い出したくらいでした。おかげで、いろいろな知識を整理することもでき、合格した今では、自信をもって「老年歯科専門医」と名乗ることができる、とても価値がある資格を取得したと思っております。これからも今まで以上に研鑽を積み、地域医療に貢献していきたいと考えています。



中澤誠多朗先生

(北海道大学大学院歯学研究科高齢者歯科学教室)

認定医を取得した時点で、専門医を目指す予定は正直なところなかったのですが、弘前で開業しているお父さんから「おらの遺言と思って専門医を取れ」と言われたために受験を決意しました。卒業後12年ほど大学に在籍し、試験を作成する立場となつてからの受験勉強は新鮮で、作る側の経験が役に立った部分もあったように思います。受験とコロナ禍での感染対策の両立は困難でしたが、今は専門医を取得してよかったと考えています。もし現在、認定医・専門医の受験を検討している先生がい



らっしゃるなら、迷わず受けることをおすすめします。なんなら私が遺言しますので、是非認定医・専門医として一緒に老年歯科を盛り上げていきましょう。

富田健嗣先生
(愛知県(富田歯科))

私は東北大学大学院歯学研究科(旧高齢者歯科学講座)を修了し、その後、名古屋市で勤務、開業しました。現在は、特別養護老人ホームの協力歯科医をはじめ、要介護高齢者や医療的ケア児者の在宅歯科診療も行っています。ま

た長年、県歯科医師会で地域保健部の事業活動にも取り組んできました。専門医筆記試験では、図や写真を用いた基礎から臨床の幅広い分野の問題が出題され、テキストを十分に読み込んでおくことが求められます。開業医の先生も計画的に準備し、認定医、専門医を目指してほしいと思います。今後は、地域包括ケアシステムにおいて、かかりつけ歯科医師としての役割を考えながら地域医療・介護に貢献していきます。



第2回台湾日本高齢者口腔医学サミット (The 2nd TAGD-JSG Gerodontology Summit)参加報告

同サミット発表者 若杉葉子

3月14日(日)9時半から、第2回台湾日本高齢者口腔医学サミットがオンラインにて開催されました(参加者85名)。内容は、台湾からフレイル高齢者の現状、台湾の義歯提供計画、フレイル高齢者の口腔マイクロバイーム、再生医学について、日本から認知症高齢者の歯科治療ガイドライン(平野浩彦先生)、神経発達障害者の嚥下障害(田村文誉先生)、訪問歯科診療の実績(若杉)、口腔機能低下症の測定の簡素化(八田昂大先生)について講演がありました。

台湾のチェアマンであるAndy先生から、口腔機能低下についての研究は台湾でも急務であり日本と協力して進めていきたいとお話がありました。これからも交流を兼ねた情報共有の場を持ち続ける必要性を感じました。



和やかな雰囲気のもと行われたサミットの様子

オンライン Live 研修会 「しっかり基礎知識—摂食嚥下障害に関わる脳神経を中心に—」開催報告

摂食嚥下リハビリテーション委員会
委員長 吉田光由

1月22日(金)にオンラインにて行われた2021年初の研修会は、過去の研修会アンケートより参加者の希望にお応えし、摂食嚥下障害に関わる基礎知識をテーマとし、摂食嚥下リハビリテーション委員会の企画で実施いたしました。司会・大神浩一郎先生、座長・飯田貴俊先生のもと、「摂食嚥下障害を脳神経学的にどのように評価するか」講師：中川量晴先生、「摂食嚥下障害を生理・運動学的にどのように評価するか」講師：吉田光由(筆者)が講義を担当いたしました。

聴講者数351名と過去最多となり、摂食嚥下障害への関心の高さがうかがえました。図表や動画を用いて脳神経の基礎知識のポイントを押さえて学びました。



講師の中川先生と吉田先生

オンライン Live 研修会 「高齢者が通いで利用するサービスについて理解する」開催報告

多職種連携委員会 若杉葉子

多職種連携委員会企画のオンライン Live 研修会を2021年2月19日（金）20時から開催しました。講師には、作業療法士であり大分を中心とした地域で介護支援事業を行っていらっしゃいます、株式会社ライフリー代表取締役の佐藤孝臣先生をお招きし、「高齢者が通いで利用するサービスについて理解する」という演題でご講演いただきました。参加者は310名にのぼり、盛況のうちに終了しました。

内容は、地域包括ケアが必要である背景から、総合的にアプローチすることが重要であることを具体的に示してくださいました。すなわち、介護サービスを利用している高齢者の多くは生活不活発による機能低下を呈しているが、身体的なアプローチだけでは功を奏せず、歯科衛生士や管理栄養士と連携して栄養と口腔へのアプローチを同時に行うことが重要であることを知りました。

大切なことは、これらを社会参加につなげることであり、利用者中心の考えをもつことが必要であるとのことでした。

佐藤先生、ご参加いただいた皆様どうもありがとうございました。

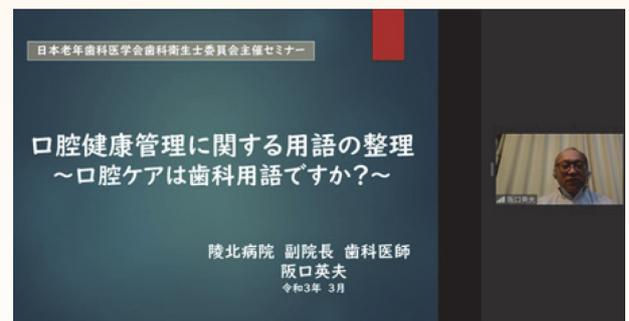


佐藤先生の講演の様子

オンライン歯科衛生士セミナー開催報告

歯科衛生士関連委員会 小原由紀

2021年3月28日（日）、2020年度2回目となる歯科衛生士セミナーを開催しました。枝広あや子先生（東京都健康長寿医療センター）より「歯科衛生士が知っておきたい認知症の基礎知識」、阪口英夫先生（陵北病院）より「口腔健康管理に関する用語の整理」をテーマにご講演をいただきました。枝広先生からは、認知症の原因疾患別の特徴、認知症への基本理解から、地域における対応など事例に即してわかりやすく解説をいただきました。続いて阪口先生からは、「口腔健康管理」と「口腔ケア」の用語の定義や臨床での捉え方について、歴史的背景や歯科衛生士の関わりも踏まえて解説をいただきました。朝9時からスタートでしたが、当日は、284名の参加があり、学会員の今回のテーマに対する関心の高さがうかがえました。次年度も、歯科衛生士向けのセミナーを開催する予定です。



枝広先生、阪口先生にご講演いただきました

支 部 だ よ り

三重支部共催セミナー

「第7回東海オーラルマネジメント研究会」開催報告

三重支部 金森大輔, 澤崎 巧

2021年1月24日(日)に第7回東海オーラルマネジメント研究会を三重支部の共催で開催しました。Web開催ということで全国から200名が参加されました。今年度は「みんなで繋げるフレイル予防!—Frail Preventive Oral Management—」をテーマとして、国立長寿医療研究センター 佐竹昭介先生から「フレイル概論」、鈴鹿医療科学大学 中東真紀先生から「フレイルと栄養～宇宙飛行士の未来宇宙食から考える」、藤田医科大学 松尾浩一郎先生から「口から繋げるフレイル予防—カムカム健康プログラムの提案」の3演題をそれぞれご講演いただきました。フレイルと栄養という視点からわかりやすく解説していただきたいへん有意義なセミナーとなりました。



たいへん有意義なセミナーとなりました

学 会 だ よ り

Minds ガイドラインライブラリーに以下が収載されました。

<収載ガイドライン>

- ・認知症の人への歯科治療ガイドライン



- ・認知症患者の義歯診療ガイドライン 2018



支部セミナーのご案内

北海道支部主催セミナー 「第20回北海道口腔ケアセミナー」

日 時:2021年5月29日(土) 14:00~16:40(予定)
※Web 配信 (Zoom による配信)

★詳細は学会ホームページでご確認ください。

講 師: 枝広あや子先生(東京都健康長寿医療センター)
山根由起子先生(旭川医科大学医学部)

編集後記

広報委員会では前回の学術大会に引き続き SNS (Facebook, Twitter) での学術大会に関する情報発信を行います。SNS のアカウントをお持ちの会員の皆様による、学会アカウントからの情報発信への協力も歓迎しておりますので、興味がありましたら学会事務局 (gakkai30@kokuhoken.or.jp) までご連絡ください。多くの会員の皆様と SNS を通じた学術大会中の交流も楽しみにしております。(飯田 崇)

発行人 水口俊介
編 集 (一社)日本老年歯科医学会広報委員会
事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9
駒込TSビル (一財)口腔保健協会内
電 話 03-3947-8891 FAX 03-3947-8341
E-mail gakkai30@kokuhoken.or.jp